

THE RECORD

平成19年度事業報告

Webサイト「全日本CDショップ店員組合」が誕生



社団法人 日本レコード協会

RIA
Recording Industry Association of Japan

納本制度60周年

国立国会図書館長 長尾 真



国立国会図書館は戦後すぐの昭和23年に旧帝国図書館を引き継いで新しく出発しましたが、その特徴は納本制度に支えられているところにあります。つまり国内で出されるすべての出版物は1部を国立国会図書館に納入することが義務づけられたのです。ただ義務といっても、その意味するところは出版されたものは国立国会図書館が責任をもって保存し、広く人々の利用に供するということで、いわば著者に代わって後世に著者の作品を伝えてゆく義務を国立国会図書館が負うということであるわけです。

国立国会図書館が集める出版物は法律によって図書や雑誌、楽譜、レコード、その他種々の物ということになっています。こういった出版物の納入状況ですが、いわゆる定価がついて流通している本や雑誌は100%近く集まっていますが、市販されていない国の出版物などは約50%、レコードやCD、DVDなどの音楽・映像関係については40%弱という納入率にとどまっております。

これは出版者が1部を国立国会図書館に納入しなければならない、また納入すれば末永く保存・活用してもらえんことを知らないことから起こると考え、国立国会図書館が創立60周年を迎えた今年から“納本制度の日”を5月25日と定めて、社会に広くアピールすることにしました。

納本（納曲?）が日本の文化の保存と将来の創作活動の基礎になることをご理解いただき、ご協力くださるようお願いいたします。



出版したら…



国立国会図書館は、納本をお待ちしています。



このマークは、レコード会社が
提供するコンテンツを示す
(社)日本レコード協会の登録商標です

Contents

平成19年度事業報告.....	2
Webサイト「全日本CDショップ店員組合」が誕生	6
私的録音録画補償金制度の早急な見直しについて、 権利者団体が合同記者会見を開催	7
音楽文化振興議員懇談会総会	8

INFORMATION SQUARE	9
Monthly Production Report.....	12
Data File	13
Gold Album+...認定	14

平成19年度事業報告

事業活動

[1] レコードの普及に関すること

1. 音楽用CDの再販売価格維持制度の擁護

6月には、公正取引委員会の著作物再販協議会で弾力運用の進捗状況を説明するとともにネット上でも公開し、音楽文化の維持・発展のため再販売価格維持制度の必要性を訴えた。また、海外のデータを中心に再販擁護の根拠データの補強を継続して行った。昨年度制作した啓発パンフレットをオピニオンリーダー（TV、新聞、雑誌等主要メディアの局長・論説委員クラス、音楽評論家、著名コメンテーター等）へ配布し、また、随時政官界へのロビー活動を実施、再販売価格維持制度の理解促進に努めた。

2. 協会にふさわしい需要拡大支援策の推進

(1) 1月から3ヵ月間「STOP! ILLEGAL COPY～違法コピー撲滅」キャンペーンを実施した。このキャンペーンには会員全社が一斉に参加し、有力特約店全店の有料広告無料提供、セル店とレンタル店の全店参加、という販売業界では異例のスキーム、規模となった(6月迄の延長が決定した)。

(2) 「CDショップ店頭がまず元気になること」を目指し、「本屋大賞のCDショップ移植」を視野に入れ、10月度RIAJセミナーで本屋大賞を取り上げた。

(3) 「着うたフル(R)」配信実績のウィークリーチャート作成スキームを構築し、来年度開始することが決定した。

(4) CD発売25周年にあたり、ロゴマークを作成しパッケージの魅力を訴求するとともに、日本オーディオ協会およびCDs21ソリューションズと共同で12月6日(音の日)に「CD25周年記念イベント」を実施した。

3. 日本音楽の海外ライセンスの促進

(1) 国際コンテンツフェスティバルの一環として開催さ

れたTAMイベントに積極的に参画しアジアへのライセンス拡大を図った(当イベントを通じ、3月末時点で7社10タイトルのライセンス契約が成立、15タイトル以上が商談中)。

(2) 平成19年度の国外への原盤ライセンス数は、アジア10カ国で延べ1,113タイトル(昨年1,027タイトル)、うち中国においては65タイトル(昨年45タイトル)となった。中国では当協会が権利認証機関となったことにより認証数が100タイトルを突破した。また、歌詞検閲審査期間短縮化に向け中国文化部の関係者を招聘し相互理解を深めた。

4. 音楽情報データの整備

“Music J-CIS”(Music Japan-Copyright Information Service)の構成団体として、音楽権利情報データベースを充実させユーザーへのサービスを拡大するため、レコード会社マスターのEDIデータから、平成19年1月～12月発売の新譜約27万の楽曲情報を取り込み、19万楽曲のISRCと作品コード、実演家コードの関連付けを実施した。その結果、収録楽曲総件数は約313万件、ISRCは約110万種類、そのISRCで作品コードが特定できるのは約88万種類となった。

[2] レコードに関する調査研究および統計に関すること

1. 市場調査、産業統計の充実

音楽パッケージソフトの月別生産実績、並びに四半期毎の音楽配信実績を集計し公開した。また、統計データの精度向上のためインディーズの実績収集を開始した。

2. 音楽に関する消費者実態調査の実施

若年層の購買行動調査をメインテーマとし、第23回音楽メディアユーザー実態調査を行った。

「STOP! ILLEGAL COPY～違法コピー撲滅」キャンペーン実施に伴い、パッケージのコピー実態調査を実施した。

[3] 録音による芸術文化の保存に関すること

1. 歴史的音盤アーカイブとCDリサイクル

(1) 4月にNHK、関係団体とともに「歴史的音盤アーカイブ推進協議会」(HiRAC)をスタートさせ、事業構想の具現化を進めた。また、文化庁の委嘱調査事業として、①原盤調査、②技術検討、③運用検討、④プロト版作成について検討を進め、今後のアーカイブ事業のベース作りが出来た。

(2) CDリサイクルを目指す関連業界で構成された光ディスク「グリーンプロダクトチェーン」(GPC)連絡協議会に積極的に参画し、見本盤回収事業においてリサイクルの実証実験を行った。

2. 新生日本ゴールドディスク大賞の開催

平成18年3月に実施した第21回授賞式の検証に基づき、第22回も授賞式+記者会見の内容で開催したが、会場や演出方法を見直すとともに、授賞式の模様をレーベルモバイル等を通じ配信するなど新たな取組みも実施した。

3. 文化庁芸術祭への協力

「第62回文化庁芸術祭」のレコード部門申請窓口として57作品を参加申請し、参加が承認された32作品の中から芸術祭大賞1作品、優秀賞3作品が選出された。

4. 日本プロ音楽録音賞の共催

優秀な音楽録音作品を選定し、その録音エンジニアを顕彰する日本プロ音楽録音賞を(社)日本音楽スタジオ協会、日本ミキサー協会、(社)日本オーディオ協会、演奏家権利処理合同機構 Music People's Nestおよび当協会が共催し、平成19年12月6日虎ノ門パストラルにおいて第14回授賞式を開催した。

[4] 著作権・著作隣接権等に関すること

1. モバイル向け違法音楽配信対策の強化

(1) 上期は違法音源探索作業の外注化、下期は技術を用いた探索作業の自動化により、6月以降で3月末

まで合計約4万件の削除要請を実施した。また、各携帯キャリア代表者に対し、音楽関係6団体の連名で技術的対策強化を要請し、モバイル違法配信対策協議会におけるキャリアとの検討を2月から開始した。さらに、レンタル掲示板を利用して違法に大量の音楽ファイルをアップロードしていた4名の悪質ユーザーの逮捕に協力し、主犯者には懲役1年執行猶予3年の判決が下された。この厳しい判決はマスコミも広く取り上げ、著作権侵害に対する大きな抑止力となった。

(2) 若年層に直接訴求するため、「携帯音楽を守りたいキャンペーン」携帯サイトを開設、15組のアーティストから、違法な携帯音楽の利用中止を呼びかけるメッセージを発信した。更に3月から4月にかけて、関係4省庁の後援、携帯キャリア・CPからの協賛金協力も得て、5組のアーティスト出演による全国TVCMを中心とした大型キャンペーンを総予算1億2,400万円で実施、全国延べ1万4千GRPの露出となった。また、同期間の携帯サイトのアクセス数は1日平均13万PV、期間計200万PVとなった。キャンペーンは若年層を中心に大きな反響を呼び、事後の若者調査では広告の内容理解度は95%、違法アップロードの違法性認知度は90%に達した。

2. 著作権法改正への取組みの強化

(1) 文化庁「私的録音録画小委員会」において、違法配信等からの私的録音録画を30条の適用範囲から除外すべきことを積極的に働きかけ、法改正の方向で検討が進められた。

(2) 私的録音委員会の下に「違法配信識別ワーキングチーム」を設置し、識別マーク(エルマーク)の制定・運用方法の検討を行い、2月19日に運用を開始した(3月末で配信事業者128社、785サイトが対応)。この取組みは、業界他団体をはじめ行政等からも高い評価を受けた。

(3) IPマルチキャストの「自主放送」に関する著作権法上の取扱いについて、総務省情報通信審議会の下部委員会に参加し、レコード製作者の権利の不当な切下げに反対する活動を展開した。

(4) 文化庁「過去の著作物等の保護と利用に関する小委員会」において、レコード保護期間の延長を求める意見を表明した。

(5) レコード演奏権の創設に向けた準備のため、10月から11月にかけて欧州4カ国を訪問し法制度および運用実態の調査を実施した。当調査結果はRIAJセミナー等を通じ公開し、会員各社の意識付けを図るとともに、実演家団体との連携に向けた働きかけを開始した。

[5] レコードに関する出版物の刊行等

1. 出版物の刊行

月刊機関誌「THE RECORD」を発行し、会員社、関係団体、官公庁、マスメディア、業界関係者などに配布した。同機関誌では、日本のレコード産業の現状や課題、協会活動、業界関連の調査・統計、世界のレコード産業の動き、その他音楽関係のトピックを取り上げ、読者の関心を高めた。また、日本のレコード産業の年間統計資料集として「日本のレコード産業2008」を和文、英文で発行し、ネット上でも公開した。

2. ホームページの運営

当協会の、公式インターネットサイトの今年度の更新・追加ページは889ページにのぼった。

また、携帯電話のネット利用の普及にあわせて、著作権啓発関係情報掲載を中心とした当協会の公式携帯サイト「Respect Our Musicモバイル」を前年度に引き続き運営した。

[6] レコード製作者に係る商業用レコードの二次使用料に関する権利行使の受任、総額の取り決めならびに徴収および分配

1. 二次使用料等の徴収および分配

(1) 地上放送に関する使用料協議が整わなかったことが影響し、徴収額は47億7,300万円(前年度比1.1%減)、権利者分配額は42億1,200万円(前年度比3.2%減)となった。

(2) 未契約状態にある日本CATV連盟との間で、有線テレビ放送の二次使用料協議を本格的に開始した。

2. 二次使用料の放送実績分配への移行準備

平成22年度からの二次使用料の実績分配実現のため、NHKおよび民放キー局(4局)とともにフィンガープリント技術を用いた放送音源全曲報告の実用化試験を行い、課題の整理を行った。また、二次使用料実績分配に向けたISRCの精度向上のため、ISRCエラー修正フロー(①jmdで抽出、②会員社へ報告、③会員社が修正)を確立した。その結果、期初23%あったエラー率が昨年末には14%まで改善した。

3. レコードの送信可能化権集中管理事業の拡大

放送番組のインターネットでの二次利用について、コミュニティ放送事業者の団体と協議が整い、来年度から許諾を開始することとなった。

[7] レコード製作者に係る商業用レコードの公衆への貸与に係る報酬等に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

音楽CD需要拡大協力金の徴収は順調にスタートした。その結果、徴収額は35億4,500万円(前年度比16.5%増)、権利者分配額は30億6,300万円(前年度比19.2%増)となった。

[8] 私的録音録画補償金に関する権利行使団体の構成員としての業務ならびにレコード製作者に係る当該補償金の分配

- 1. 私的録音補償金
(社)私的録音補償金管理協会(sarah)から2億8,571万円(前年度比22%減)を受領し、2億4,138万円(前年度比21%減)を権利者に分配した。
- 2. 私的録画補償金
(社)私的録画補償金管理協会(SARVH)から3,829万円(前年度比20%減)を受領し、3,109万円(前年度比23%減)を権利者に分配した。

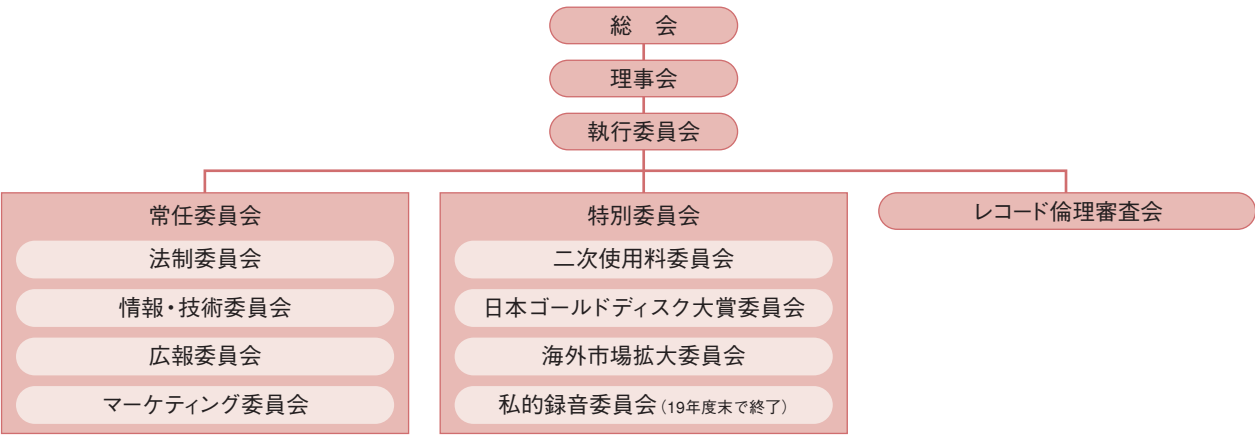
[9] その他

- 1. 海外の団体等との連携
IFPI(国際レコード産業連盟)の中央理事会が、5月にベルリン、1月にロンドンで開催され、いずれも協会長が出席した。

- 2. レコード倫理審査会の開催
月次会議にて会員社から発売される全邦楽作品9,949点について審査を行った。また、学識経験者委員のノンフィクション作家家田莊子氏により会員社の制作担当者を対象に「薬物被害の実態」についてのセミナーを実施した。
- 3. 業界規格(RIS)の制定と改正
RIS504別冊「各種コード一覧表」(平成20年3月版)を発行した。
- 4. “ISRC”(International Standard Recording Code)管理機関としての活動
登録者コードの新規発行件数112件(前年度108件)、個別コードの発行曲数は9,401曲(前年度8,086曲)であり、3月末の累計数は登録者コード504件、個別コード20,045曲となった。

運営体制

平成19年度末における当協会の運営体制は次の通りである。



以上

全日本CDショップ店員組合

CDショップの現場から音楽を盛り上げていきたい。CDショップ店員ひとりひとりの情報発信力を高めたい。そんな想いから、現役のCDショップ店員たちが中心となって運営する新しい音楽WEBサイト「全日本CDショップ店員組合」が6月1日に公開された。当協会としてもこのサイトを通じてCDショップ店員のネットワークが生まれ、CDショップ店頭が活性化することを期待している。以下にサイトの一部を紹介する。



(<http://www.cdshop-kumiai.jp>)

コンテンツ

● 365日! CDショップ店員リレーブログ ●

全国のCDショップ店員が一番勧めたいCDを紹介していくリレーブログ

● 音楽まるごと相談室 ●

各音楽分野に精通したCDショップ店員が相談員となり、読者から寄せられた音楽への素朴な疑問に答えます。

● マイファーストレコードショップ ●

あのアーティストが、生まれて初めて買ったレコードのこと、CDショップとの思い出、エピソードなどを語ってくれます。

● CDショップ大将! ●

全国各地の名物CDショップ店長やカリスマバイヤーを訪れ、お話を伺います。

● 試聴機美人 ●

ヘッドフォンを耳にして、試聴している女のコッてかわいい! 毎回、彼女たちを撮影、インタビューします。

● POP大喜利 ●

毎回お題となるCDを設定し、それに対し全国の店員から熱い手書きPOPを募集。投票でいちばんを決定します。

全日本CDショップ店員組合とは

CDショップの現場から音楽を盛り上げていきたい。CDショップ店員ひとりひとりの情報発信力を高めたい。

そんな想いから新しい音楽WEBサイトが生まれました。

「全日本CDショップ店員組合」



運営の中心は現役のCDショップ店員たちです。

音楽の聴かれ方が多様化している昨今、それでも、音楽を愛し、お客さんの一番近くにいるCDショップ店員だからこそできることがある。大型プロモーションやヒットチャート、音楽誌などとも違う私たちのセンスと目利きを生かした音楽情報発信を目指したい。また、チェーン店、卸店の垣根なく、全国のCDショップ店員の交流の場としてこのサイトを育てていきたいと考えています。

サポーターとして

「月刊風とロック」などを発行し、インディペンデントな立場から音楽を応援し続けている箭内道彦氏が参画。CDショップ店員はもちろんのこと、一般の音楽ファンにも楽しんでもらえるサイトづくりを心がけていきます。

CDショップ店員による、CDショップ店員のためのこのサイトを皆さんのアドバイス、サポートを頂きながら、大きく育てていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

全日本CDショップ店員組合
実行委員一同

私的録音録画補償金制度の早急な見直しについて、権利者団体が合同記者会見を開催

デジタル私的録画問題に関する権利者会議(当協会を含む音楽・映像関係の権利者団体28団体で構成)は、5月29日、津田ホール(東京都渋谷区)において記者会見を開催し、私的録音録画問題の早期解決に向けて、補償金制度の見直しを早急に進める必要があるとの意見を表明した。

この記者会見は、私的録音録画補償金制度の見直しに関する基本的な方向性が決定される予定であった5月29日の文化審議会著作権分科会私的録音録画小委員会が、機器メーカー側との調整がつかないまま、開催延期となったことを受けて実施したもの。

権利者側からは、改めて私的録音録画補償金制度の必要性について、機器メーカーの社会的責任を明らかにし、機器メーカー側が主張する同制度の拡大の懸念については根拠がない旨の反論を行うとともに、これまでの長期間にわたる検討を踏まえて早期解決を図るべきと訴えた。なお、こういった状況に伴い、同日開催された総務省・情報通信審議会の専門委員会も、無料デジタル放送からのコピー回数を現行の1回「コピーワンス」から10回に緩和する「ダビング10」の開始日を確定できない事態となっている。

当協会は、「ダビング10」の早期実施のためにも、今後も引き続き他の権利者団体とともに、私的録音録画補償金制度の円満な解決を求めている。



文化審議会著作権分科会私的録音録画小委員会の直近の状況

- 平成20年1月17日:平成19年第16回私的録音録画小委員会
文化庁から「著作権保護技術と補償金制度について(案)」という書面(※1)が示され、各委員が持ち帰って検討。
- 平成20年4月3日:平成20年第1回私的録音録画小委員会
機器メーカー団体の委員が、バランスの取れた解を見つけるため真摯に努力すると発言。
- 平成20年5月8日:平成20年第2回私的録音録画小委員会
文化庁から「私的録音録画補償金制度の具体的制度設計について(案)」という書面(※2)が提示されたが、機器メーカー団体の委員から、当該書面についていくつかの疑問点等が示されたため、文化庁がそれを明らかにする資料を作成することとし、次回小委員会にて私的録音録画補償金制度の見直しに関する基本的方向性を決定することを確認。
- 平成20年5月29日
機器メーカー側との調整作業が進まず、第3回会議の開催が延期。

著作権保護技術と補償金制度について(案) (1月17日 文化庁提案の概要)

※ 1

(原文: http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/bunka/gijiroku/020/08012107/001.htm)

- 補償金制度は、私的録音録画の拡大に伴い、権利保護と利用の円滑化に関し録音録画機器等のメーカーに補償金の支払いについて一定の協力を求めるという考えをもとに制度設計されているが、著作権保護技術が普及し、録音録画の制限に機器等のメーカーが一定の役割を果たしている現状から、著作権保護技術の開発・普及のみならず、補償の必要性がある分野であっても協力義務者が支払い義務者かにかかわらず機器等のメーカーに一定の負担を強いるのは関係者の理解を得られなくなってきており、現行の補償金制度による解決は、今後縮小し、他の方法による解決に移行すべきである。
- 上記のとおり、補償金制度による対応を縮小することとするが、当面補償金制度での対応を検討する必要がある分野としては次のとおりである。
 - ア 音楽CDからの録音
 - イ 無料デジタル放送からの録画

(原文: http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/bunka/gijiroku/020/08051202/003.htm)

1. 制度設計に当たっての基本的な考え方

将来の補償金制度の縮小を前提としつつ、当面、経過的に存置するものであることから、制度の枠組みを大きく変更することは適当でない。ただし、さまざまな実態の変化を踏まえ、制度の運用に適切に反映しうよう見直しを行なう。

2. 具体的な制度設計

対象機器・記録媒体の範囲

機器・記録媒体の種類	考え方
ア 分離型の専用機器・専用記録媒体	現行制度の対象であり、当然対象になる。
イ 録音録画機能が附属機能でない機器のうち 記録媒体を内蔵した一体型のもの (例 HDD内蔵型録画機器、携帯用オーディオ・レコーダー)	録音録画を主たる用途としている機器等である限りは、特に分離型機器等と区別する必要がないので対象にするべきである。
ウ 録音録画機能を含めて複数の機能がある機器で どの機能が主要な機能といえないもの(例 現在のパソコン)	現状では、録音録画を主たる用途としている機器とはいえないことから対象とすべきではない。
エ 録音録画機能を附属機能として組み込んだ機器(例 留守番電話、携帯電話、録音機能付カーナビゲーション)	現行制度においても本来の機能に付属する機能として録音録画機能を有するものは除外しており、ウの考え方との均衡からも、現状では対象にすべきでない。
オ 専用記録媒体以外の記録媒体	ウと同様、現状では対象にすべきではない。

音楽文化振興議員懇談会総会

4月22日、東京都千代田区の自由民主党本部において自民党の有志議員で構成される音楽文化振興議員懇談会(島村宜伸会長)の総会が開催された。この懇談会は音楽文化の振興を目的とし、1997年6月に設立された組織である。

当日は各音楽関係団体の代表者が出席し、当面の音楽産業の諸問題に関する意見交換が行われた。

当協会石坂会長は歴史的音盤のアーカイブ化について、業界だけではすべてを遂行することは困難であることから国の支援が必要との発言を行い、先生方からは、本件に関する積極的な意見を頂戴した。



■音楽団体からの発言(発表順)

- (1) 私的録音録画問題
- (2) 著作権等の保護期間延長
- (3) 歴史的音盤のアーカイブ
- (4) 韓国政府に日本文化開放を求める件

●総会出席議員(敬称略・順不同)

会長	衆議院議員	島村 宜伸
副会長	衆議院議員	村上 誠一郎
	衆議院議員	古屋 圭司
幹事長	衆議院議員	小野 晋也
	衆議院議員	高市 早苗
	衆議院議員	遠藤 利明
	衆議院議員	船田 元
	衆議院議員	鈴木 淳司
	衆議院議員	大塚 拓
	衆議院議員	遠藤 宣彦

第410回理事会・第125回通常総会開催 役員改選、石坂会長再任

5月30日、東京都千代田区のホテルニューオータニにおいて、当協会は、第410回理事会および第125回通常総会を開催し、平成19年度事業報告書および決算報告書が承認された。その後、下記役員人事を承認し、会長には、引き続き、石坂敬一ユニバーサル ミュージック株式会社代表取締役会長兼CEOが再任された。なお、役員の任期は、いずれも2008年6月1日より2年間。

事業報告の詳細については、本誌2頁から5頁「平成19年度事業報告」を参照。

■再任・新任(6月1日付)

会長	石坂敬一	ユニバーサル ミュージック(株)
副会長	稲垣博司	エイベックス・マーケティング(株)
副会長	小池武久	キングレコード(株)
副会長	廣瀬禎彦	コロムビアミュージックエンタテインメント(株)
副会長	北川直樹	(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
理事	加藤裕一	ビクターエンタテインメント(株)
理事	西山千秋	(株)ティチクエンタテインメント
理事	堂山昌司	(株)EMIミュージック・ジャパン
理事	西野茂詔	日本クラウン(株)
理事	桐畑敏春	(株)ポニーキャニオン
理事	吉田 敬	(株)ワーナーミュージック・ジャパン
理事	徳市慎治	(株)バップ
理事	ダニエル・ディチーコ	(株)BMG JAPAN
理事	気賀純夫	ジェネオン エンタテインメント(株)
理事	後藤 豊	(株)フォーライフ ミュージックエンタテインメント
専務理事	生野秀年	(社)日本レコード協会
常務理事	水村雅博	(社)日本レコード協会
理事・事務局長	高杉健二(新任)	(社)日本レコード協会
監事	長谷川彰介	(株)ヤマハミュージックコミュニケーションズ
監事	高久光雄	(株)ドリーミュージック・
監事	石田英遠	弁護士

■退任(5月31日付)

専務理事 田辺 攻

■委嘱(6月1日付)

顧問 田辺 攻 (社)日本レコード協会前専務理事

立命館大学JASRAC寄付講座 「音楽文化・産業論」にて講義

4月19日、京都府京都市の立命館大学において、(社)日本著作権協会(JASRAC)主催、音楽評論家の反畑誠一氏が客員教授として実施している産業社会学部寄付講座で当協会水村常務が「音楽配信はCDを超えるか」というテーマで講義を行った。

この寄付講座は立命館だけでなく、「大学コンソーシアム京都」という大学の団体が単位を互換して行っており、今回の講義にも立命館の学生のほか、京都外語、同志社等8大学の学生も受講している。

「音楽文化・産業論」というテーマの講座を受講する学生というだけあり、受講生の多くが音楽や音楽産業に興味を抱いており、配信よりCDという学生、アーティストに対するリスペクトを持っている学生がほとんどであった。

受講後のレポートでは、「すでに韓国では配信がCDを超えていることにびっくりした。他国に比べ日本のCDがまだまだ強いということを知り安心した」「音楽売上の邪魔をしていると思っていた再販制度が日本の音楽を守っていることを始めて知った」「『エルマーク』のことを初めて知り、今後音楽サイトを使うときは気をつけてみようと思った」「音楽CDができるまでにこんなに日数と人手がかかることを初めて知った」「『音楽創造サイクル』という言葉を知り初めて聞いて『なるほど』と思った」「絶対音楽業界に入りたいと改めて思った」などの意見があった。

一方、厳しい意見としては、「私はCD派、何よりもアーティストへの感謝や尊敬の念によるものだが、アーティスト、供給側にも問題がある。流行や同じような曲ばかりだと買う気にならなくなる」「アーティストを育てることも必要だが、聴く人(特に子供)を育てることも必要」「初回盤、通常盤差別化にまんまと踊らされている消費者の1人だが、1曲だけ異なるものを収録するのはやめて欲しい」などがあり、大学生の音楽に対する興味・欲求の大きさや、音楽業界の現状をより深く理解してもらうことの必要性を強く感じさせられた。

IFPI 国際演奏権委員会開催

5月15日から16日にかけて、イギリス・ロンドンにおいて、IFPI(国際レコード産業連盟)の国際演奏権委員会が開催され、当協会情報・技術部の畑部長と法務部の苅部課長補佐が出席した。

同委員会は、世界各国のレコード使用料徴収団体・メジャー等が一同に会して、使用料の徴収・分配等に関する諸課題を検討する場として毎年開催されており、本年は約100名が参加した。

会議では、2007年度の使用料徴収実績や放送・演奏使用料の改定に関する各国の動向について、内容報告とその分析が行われ、徴収・分配業務の最適化に向けて、積極的な討議が実施された。

「日本のレコード産業2008」英語版発行

当協会は、「日本のレコード産業2008」の英語版である「RIAJ Yearbook 2008」を発行した。この小冊子は、



2007年のレコード産業の概要を網羅したA4版28ページで構成され、レコードの生産実績、有料音楽配信実績、新譜・カタログ数、ミリオンセラーなど、幅広く掲載している。

日本語版、英語版ともに当協会ホームページでもPDF版の閲覧が可能。

<http://www.riaj.or.jp/issue/industry/index.html>

会員社情報

■入会(6月1日付)

社名: 株式会社ブレイブ(賛助会員)

代表: 代表取締役社長 殿村裕誠

住所: 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-23-23
恵比寿スクエア3F

TEL: 03-5789-9800 FAX: 03-5789-9801

■入会(6月1日付)

社名: 株式会社ワードレコーズ(賛助会員)

代表: 代表取締役 並木恭孝

住所: 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-59-4
クエストコート原宿505

TEL: 03-5775-3257 FAX: 03-5775-3282

■移転(5月15日付)

社名: 株式会社ジャニーズ・エンタテイメント

新住所: 〒150-0041 東京都渋谷区神南1-19-11
パークウェスクエア2 3F

TEL: 03-3477-2150 FAX: 03-3477-2160

当協会事務局人事

(6月1日付)

広報部課長補佐 高山美登里(前: 広報部係長)

情報・技術部課長補佐 丹野祐子(前: 情報・技術部係長)

業務部係長 飛世麻紀(前: 業務部)

JASRAC2007年度徴収額発表

5月14日、東京都渋谷区のけやきホールにおいて、(社)日本音楽著作権協会(JASRAC)が、2008年度定例記者会見を開催し、2007年度徴収額が発表された。2007年度JASRAC徴収額は下記の通り。

種目	徴収額(百万円)	前年度比(%)
演奏・合計	53,703	110.1
録音・合計	41,462	98.9
出版・合計	1,479	98.6
貸与・合計	3,705	97.3
複合・合計	14,812	102.6
使用料収入合計	115,162	104.3
私的録音補償金	304	78.0
私的録画補償金	205	79.8
補償金・合計	509	78.7
総合計	115,671	104.1

● 2008年5月会議メモ

- 5・7 マーケティング委員会
- 5・9 情報・技術委員会
- 5・12 レコード倫理審査会
- 5・13 法制委員会
- 5・15 広報委員会
- 5・16 二次使用料委員会
- 5・21 海外市場拡大委員会
- 5・23 執行委員会
- 5・30 理事会・総会

第5回東京アジア・ミュージックマーケット開催のお知らせ

.....
<http://tamm.jp/>

5th TAMは日本音楽の魅力あるアーティスト・音楽コンテンツを広く海外に発信していくとともに海外からのアーティストによるショーケースライブを実施し広く音楽産業の振興を支援していきます。

本年もJAPAN国際コンテンツフェスティバル（略称CoFesta）のオフィシャルイベントの一環として開催し、今回からはアジア地域のみならずCoFestaのテーマのひとつである「国際性」を目指し、欧米の音楽関係者を招き、音楽産業の発展と相互の連携拡大に向け音楽業界を挙げて取り組んでいきます。

■ 概 要

名 称： 第5回東京アジア・ミュージックマーケット ～2008 5th Tokyo Asia Music Market～

日 程： 2008年10月14日(火)～17日(金) (4日間)

会 場： 品川プリンスホテル／品川ステラボール(予定)／代官山UNIT

内 容： ①商談会

10月14、15日(2日間)＜会場／品川プリンスホテル＞

→日本のレーベル等のプレゼンテーションおよび個別商談会

②ショーケースライブ

10月14、15、16日(3日間)＜会場／品川ステラボール＞

→日本人アーティスト

10月17日(1日)＜会場／代官山UNIT＞

→海外アーティスト

③ビジネスセミナー

10月16日(1日)＜会場／品川プリンスホテル＞

共 催： 経済産業省、(財)音楽産業・文化振興財団、NPO法人映像産業振興機構

協 力： (社)日本レコード協会

後 援： 外務省、国際レコード産業連盟、(社)私的録音補償金管理協会、(社)日本音楽著作権協会、(社)日本芸能実演家団体協議会、
(社)日本音楽事業者協会、(社)音楽出版社協会、(社)音楽制作者連盟、(社)全国コンサートツアー事業者協会 (予定)

お問合せ： (財)音楽産業・文化振興財団(TAM事務局)

〒105-0021 東京都港区東新橋2-9-2 パラッツォ・ジューラソーレ8階

TEL: 03-5408-8885

Email: info@promic.net

Monthly Production Report

2008年4月度レコード生産実績

4月度の音楽ソフト（オーディオレコード・音楽ビデオの合計）生産実績は、数量で前年同月比97%の2,223万枚・巻、金額で同100%の253億円となりました。

このうち、オーディオレコードは、数量で前年同月比98%の1,924万枚・巻、金額で同94%の209億円となり、また、音楽ビデオは、数量で前年同月比90%の299万枚・巻、金額で同146%の44億円となりました。

● オーディオレコード

（数量：千枚・巻／金額：百万円）

			4月実績						2008年1月～2008年4月累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
シ ン グ ル	8cmCD	邦	13	0	71%	7	0	75%	78	0	93%	39	0	96%
		洋	0	0	33%	0	0	34%	28	0	27%	3	0	20%
		計	13	0	70%	7	0	74%	106	0	56%	43	0	74%
	12cmCD	邦	4,404	23	87%	3,123	15	81%	17,240	22	83%	12,855	13	84%
		洋	16	0	16%	9	0	32%	228	0	123%	66	0	64%
		計	4,421	23	86%	3,133	15	80%	17,469	22	84%	12,921	14	84%
	小計	邦	4,418	23	87%	3,130	15	81%	17,318	22	83%	12,894	13	84%
		洋	16	0	16%	9	0	32%	257	0	88%	69	0	58%
		計	4,434	23	86%	3,140	15	80%	17,575	22	83%	12,964	14	84%
	12cmCD アルバム	邦	10,114	53	114%	12,369	59	107%	42,076	53	95%	61,347	64	94%
		洋	4,288	22	85%	5,017	24	78%	17,333	22	82%	19,535	20	80%
		計	14,402	75	103%	17,386	83	97%	59,409	75	91%	80,882	85	90%
CD 合計		邦	14,532	76	104%	15,499	74	100%	59,394	75	91%	74,242	78	92%
		洋	4,304	22	83%	5,026	24	78%	17,589	22	82%	19,604	21	80%
		計	18,836	98	99%	20,525	98	94%	76,983	98	89%	93,846	98	89%
アナログ ディスク		邦	27	0	157%	41	0	212%	54	0	91%	76	0	80%
		洋	6	0	85%	9	0	89%	14	0	55%	19	0	44%
		計	33	0	136%	50	0	170%	68	0	80%	95	0	69%
カセット テープ		邦	333	2	83%	269	1	80%	1,642	2	79%	1,333	1	84%
		洋	0	0	0%	0	0	0%	0	0	17%	0	0	26%
		計	333	2	83%	269	1	80%	1,642	2	79%	1,333	1	84%
その他		邦	29	0	59%	54	0	85%	97	0	67%	170	0	60%
		洋	9	0	84%	19	0	90%	37	0	61%	78	0	74%
		計	38	0	64%	73	0	86%	134	0	65%	248	0	64%
合 計		邦	14,921	78	104%	15,862	76	100%	61,187	78	91%	75,821	79	92%
		洋	4,320	22	83%	5,055	24	78%	17,640	22	82%	19,701	21	80%
		計	19,240	100	98%	20,917	100	94%	78,827	100	89%	95,522	100	89%

● 音楽ビデオ

		4月実績						2008年1月～2008年4月累計					
		数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
DVD	邦	2,721	91	90%	3,959	90	152%	17,564	94	99%	23,592	92	149%
	洋	266	9	101%	454	10	116%	1,154	6	90%	1,972	8	104%
	計	2,988	100	91%	4,413	100	148%	18,717	100	98%	25,565	100	144%
テープ・LDその他		3	0	16%	8	0	22%	31	0	16%	88	0	40%
合 計	邦	2,725	91	89%	3,966	90	151%	17,593	94	98%	23,678	92	147%
	洋	267	9	101%	455	10	116%	1,154	6	85%	1,975	8	103%
	計	2,991	100	90%	4,421	100	146%	18,748	100	97%	25,653	100	143%

● 音楽ソフト（オーディオ／音楽ビデオ合計）

			4月実績						2008年1月～2008年4月累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
オーディオ			19,240	87	98%	20,917	83	94%	78,827	81	89%	95,522	79	89%
音楽ビデオ			2,991	13	90%	4,421	17	146%	18,748	19	97%	25,653	21	143%
合 計			22,232	100	97%	25,337	100	100%	97,575	100	90%	121,175	100	97%

● ビデオ（含音楽ビデオ）

			4月実績						2008年1月～2008年4月累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
DVD			6,227	100	91%	14,242	100	111%	32,133	100	92%	64,365	99	109%
テープ・LDその他			13	0	32%	46	0	56%	94	0	32%	338	1	70%
合 計			6,240	100	91%	14,288	100	111%	32,226	100	91%	64,704	100	109%

● オーディオ／ビデオ合計

			4月実績						2008年1月～2008年4月累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
オーディオ			19,240	76	98%	20,917	59	94%	78,827	71	89%	95,522	60	89%
ビデオ			6,240	24	91%	14,288	41	111%	32,226	29	91%	64,704	40	109%
合 計			25,481	100	96%	35,205	100	100%	111,053	100	90%	160,226	100	96%

備考 1. 上記実績は、会員会社「46社」の集計である。当会員社が受託した非会員社からの販売委託分を含む。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。
※オーディオレコードのその他はSACD、DVDオーディオ、DVDミュージック、MDの合計。

2008年第1四半期 有料音楽配信売上実績

日本レコード協会加盟全社の集計による2008年第1四半期(1月～3月)の有料音楽配信売上実績がまとまりましたのでお知らせします。

2008年第1四半期は、数量で前年同期比106%の1億2,083万ダウンロード、金額で前年同期比128%の224億6,300万円となり、ベースが拡大しているため伸び率は若干鈍化したものの引き続き伸長しています。

内訳では、インターネット・ダウンロードが、数量で前年同期比134%の992万回、金額で前年同期比150%の20億8,100万円、モバイルが、数量で前年同期比104%の1億1,090万回、金額で前年同期比126%の199億7,700万円となっています。

また、今回、モバイルのシングルトラックが、音楽配信の中でさらに比重を高め、金額ベースで売上全体の50%を越えました。

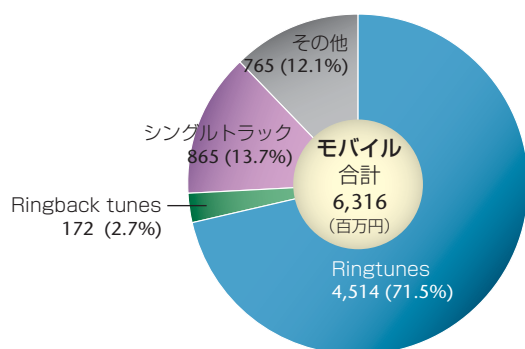
(数量:千回/金額:百万円)

	形態	2008年1月～2008年3月			
		数 量	前年同期比	金 額	前年同期比
インターネット ダウンロード	シングルトラック	9,007	131%	1,360	143%
	アルバム	525	158%	613	158%
	小計 (オーディオダウンロード分)	9,531	132%	1,973	147%
	音楽ビデオ	386	245%	108	255%
	その他	0	—	0	—
	合計	9,917	134%	2,081	150%
モバイル	Ringtunes	51,126	84%	5,875	87%
	Ringback tunes	22,601	118%	1,876	147%
	シングルトラック	34,432	148%	11,401	158%
	音楽ビデオ	2,420	100%	688	139%
	その他	325	37%	136	83%
	合計	110,903	104%	19,977	126%
その他	サブスクリプション (インターネット)			166	173%
	サブスクリプション (モバイル)			109	121%
	その他 (その他のデジタル音楽コンテンツ)	7	—	130	104%
総合計 その他		120,827	106%	22,463	128%

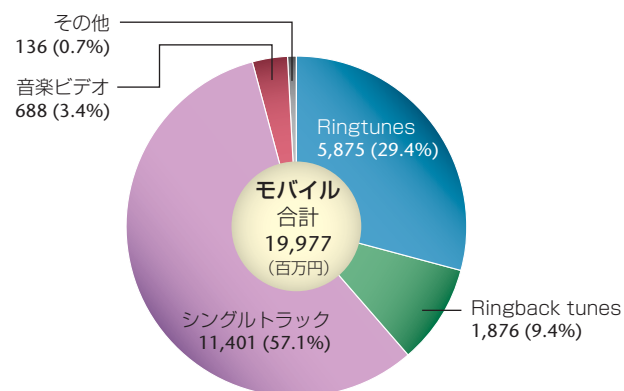
注:数量…ダウンロード回数

2005年/2008年 有料音楽配信マーケット比較

● 2005年1月～2005年3月



● 2008年1月～2008年3月



※「音楽ビデオ」は2007年1月より項目として独立。

	金額(百万円)	構成比(%)
インターネット	310	4.7
モバイル	6,316	95.3

	金額(百万円)	構成比(%)
インターネット	2,081	9.4
モバイル	19,977	90.6

2005年と2008年を比較すると現在の有料音楽配信マーケットの特徴が明確に見えてくる。

- モバイル比率が90%以上という状況は変わらず。
- Ringtunes(着うた(R))からシングルトラック(着うたフル(R))への急激な変化。
- Ringback tunes(待ちうた)、音楽ビデオも伸張。

音楽ソフト

邦楽

アルバム

● ミリオン

VOCALIST 3	徳永英明	2007.08.15	UM
------------	------	------------	----

● ダブル・プラチナ

Single Best I LOVED YESTERDAY	柴咲コウ YUI	2008.03.12 2008.04.09	UM SR
----------------------------------	-------------	--------------------------	----------

● プラチナ

秘密	aiko	2008.04.02	PC
Dream "A" live	嵐	2008.04.23	JA
ライヴアルバム	いきものがかり	2008.02.13	ES
+1	木村カエラ	2008.04.02	C
GAME	Perfume	2008.04.16	TJC

● ゴールド

TOKYO STAR	加藤ミリヤ	2008.04.02	SR
I AND 愛	244 ENDLI-x	2008.04.02	JE
HIDEAKI TOKUNAGA VOCALIST BOX	徳永英明	2008.04.09	UM
BEST OF THE BESTEST	BENNIE K	2008.04.23	FL
WONDERFUL WORLD	ゆず	2008.04.16	SN

シングル

● プラチナ

羞恥心	羞恥心	2008.04.09	PC
-----	-----	------------	----

● ゴールド

Kurikaesu春	244 ENDLI-x	2008.04.02	JE
幸せはすぐそこに...	天童よしみ	2008.02.06	TE
Mirrorcle World	浜崎あゆみ	2008.04.08	AMI
No more	米寿司	2008.04.30	JE
DRINK IT DOWN	L'Arc~en~Ciel	2008.04.02	KS

ビデオ

● ゴールド

SUMMER TOUR 2007 FINAL Time—コトバノチカラ	嵐	2008.04.16	JA
15th L'Anniversary LIVE	L'Arc~en~Ciel	2007.09.12	KS

洋楽

アルバム

● ゴールド

E=MC2〜MIMI第2章	マライア・キャリー	2008.04.16	UM
スピリット	レオナ・ルイス	2008.04.23	BMG

※日付は発売日

認定基準一覧

音楽ソフト(邦・洋、アルバム・シングル・音楽ビデオ)、音楽配信(着うた(R)、着うたフル(R)、パソコンダウンロードシングル・アルバム)共通

名称	略号	基準
ゴールド	G	10万以上
プラチナ	P	25万以上
ダブル・プラチナ	PP	50万以上
トリプル・プラチナ	PPP	75万以上
ミリオン	M	100万以上
2ミリオン	2M	200万以上
3ミリオン	3M	300万以上

以降、100万毎に賞を設定

基準単位：音楽ソフト・枚、配信・DL(ダウンロード)
※着うた(R)のみダブル・プラチナ以上を顕彰

※AI：ソニー・ミュージックアソシエイテッドレコーズ／AMI：エイベックス・マーケティング／BG：ビクターレコーズ／BM：バーミリオンレコード／BMG：BMG JAPAN／C：コロムビアミュージックエンタテインメント／CR：日本クラウン／DD：フライドライス／バウンディ／DF：デフスターレコーズ／DRM：ドリーミュージック／EMI：EMIミュージック・ジャパン／EP：アップフロントワークス(ゼティマレーベル)／ES：EPICレコードジャパン／FK：ファイブズエンタテインメント／FL：フォーライフミュージックエンタテインメント／GN：ジェネオン エンタテインメント／GZ：ギザ／HSE：DOMINO RECORDING CO/HOST-ESS／HY：東屋慶名建設／JA：ジェイ・ストーム／JE：ジャニーズ・エンタテインメント／JK：ユナイテッド・アジアエンタテインメント／K：キングレコード／KS：キューンレコード／MH：ソニー・ミュージックダイレクト／ON：ビー・ヴィジョン／PAR：プライエイド・レコーズ／PC：ポニーキャニオン／PK：ピッコロタウン／PZ：ビザ・オブ・デス・レコーズ／QQ：バームビーツ／RR：ロードランナー・ジャパン／SE：エスエムイーレコーズ／SI：ソニー・ミュージックジャパニンターナショナル／SM：ミュージックレイン／SN：SENHA & CO.／SR：ソニー・ミュージックレコーズ／SV：アニプレックス／TE：テイチクエンタテインメント／TF：トイズファクトリー／TJC：徳間ジャパンコミュニケーションズ／TLM：タイムタレーベルミュージック／UM：ユニバーサルミュージック／V：ビクターエンタテインメント／WJ：ワーナーミュージック・ジャパン／XL：アンリミテッドグループ／YR：アール・アンド・シー

有料音楽配信(「着うた(R)」他)

■「着うた(R)」

邦楽

● 3ミリオン

そばにいるね	青山テルマ	2007.12.07	UM
--------	-------	------------	----

● 2ミリオン

WINDING ROAD	絢香×コブクロ	2007.01.18	WJ
--------------	---------	------------	----

● ミリオン

ア・イ・シ・テ・ルのサイン ～わたしたちの未来予想図～	DREAMS COME TRUE	2007.08.05	UM
--------------------------------	------------------	------------	----

● トリプル・プラチナ

銀河鉄道999	EXILE	2008.02.27	AMI
Cry Baby	SEAMO	2007.04.11	BMG

● ダブル・プラチナ

NEW LOOK	安室奈美恵	2008.02.13	AMI
Stay Gold	宇多田ヒカル	2007.12.07	EMI
羞恥心	羞恥心	2008.03.05	PC

洋楽

● トリプル・プラチナ

アイ・ウォント・イット・ザット・ウェイ	バックストリート・ボーイズ	2004.02.18	BMG
---------------------	---------------	------------	-----

■「着うたフル(R)」

邦楽

● ダブル・プラチナ

Story	AI	2006.02.01	UM
I believe	絢香	2006.02.13	WJ
WINDING ROAD	絢香×コブクロ	2007.04.04	WJ

● プラチナ

Prisoner Of Love	宇多田ヒカル	2008.03.26	EMI
LALALA feat. 若旦那(湘南乃風)	加藤ミリヤ	2007.10.17	SR
人	GReeeeN	2007.10.31	UM
羞恥心	羞恥心	2008.04.09	PC
見えない星	中島美嘉	2007.02.14	AI

● ゴールド

ほんととはね	Aqua Timez	2008.02.09	ES
WHAT A FEELING	安室奈美恵	2008.03.12	AMI
For today	絢香	2007.11.14	WJ
帰りたいくなったよ	いきものがかり	2008.04.16	ES
バンザイ ～好きでよかった～	ウルフルズ	2004.12.23	EMI
Choo Choo TRAIN (EXILE CATCHY BEST)	EXILE	2008.02.27	AMI
ジョウネツ	加藤ミリヤ	2005.09.21	SR
Jasper	木村カエラ	2008.01.30	C
旅立ち	GReeeeN	2008.03.05	UM
涙空	GReeeeN	2008.01.16	UM
ポリリズム	Perfume	2007.09.12	TJC
COLORS	FLOW	2006.11.08	KS
流れ星 ～Shooting Star～	HOME MADE 家族	2007.03.07	KS
LIFE	YUI	2005.11.09	SR
有心論	RADWIMPS	2006.07.26	EMI
ラヴソング	ONE☆DRAFT	2007.11.21	AI

■ PC配信(シングル)

邦楽

● プラチナ

そばにいるね	青山テルマ feat. SoulJa	2008.01.23	UM
--------	--------------------	------------	----

● ゴールド

愛をこめて花束を	Superfly	2008.02.27	WJ
----------	----------	------------	----

※日付は配信開始日

協会からのお知らせ

当協会とJASRACで共同運営している「Respect Our Music モバイル」では、年間・月間の音楽配信チャート・認定作品やGD大賞のデータを掲載しています。他にもJASRACエッセイコンテスト最優秀作品の掲載、エルマークの解説等、さらにコンテンツが充実してきましたので、是非、ご覧下さい。



携帯音楽を守りたい

違法な音楽ファイルの利用はやめましょう

<http://www.mamo-on.jp>



THE RECORD No.583 2008年6月号

社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 石坂 敬一
編集人 生野 秀年
発行日 2008年6月10日
発行 社団法人 日本レコード協会
〒107-0061 東京都港区北青山2-12-16 北青山吉川ビル11F
TEL: 03-6406-0510 (代) FAX: 03-6406-0520 (代)
URL: <http://www.riaj.or.jp/>

制作協力 株式会社エフピーアイ・コミュニケーションズ

編集後記

先日、初めて登山を経験してきました。今まで興味もなく、付き合いのつもりで出掛けましたが、いざ登ってみると、美しい自然や美味しい空気、心地良い疲れなど、普段経験することのない爽快な気分を味わうことができました。最近、特にプライベートでは、新しいことにチャレンジすることを億劫がってしまっていますが、イメージを先行させてしまうのではなく、実際に体験することは大切なことだと改めて感じました。梅雨のこの時期、自宅で過ごす時間が増えそうですが、今まで触れたことのない新しいジャンルの音楽を聴いてみようかと思っています。

(T)

Respect
our **MUSIC**